

特集／座談会

21世紀の海洋開発は黄金岬から

〈座談会出席者〉

尾崎 晃氏

(海洋構造物による海洋空間等の有効利用に関するフィージビリティスタディー現地海洋構造物調査検討委員会委員長)

堀 武男氏

(経団連沖合人工島調査委員会委員長)

原田 栄一

(留萌市長)

21世紀は海洋の時代——四方を海に囲まれた日本は、陸地は37万平方キロに過ぎないが、2000カイリ経済水域の面積は約451万平方キロと世界第6位の広さを有している。

この広い海は鉱物、生物資源は勿論、自然エネルギーの宝庫であり、波、潮流、塩分濃度差などを活用することで無限に近いエネルギーを取り出すことができます。さらに、この広い空間を利用して人工的に島を造り、そこに未来都市を誕生させよう——というところから科学技術庁より昨年11月から指定を受け、黄金岬沖でその可能性を探る事前調査が始まりました。57年から61年までの5カ年にわたる本格調査が行なわれるもので「海の未来都市」づくりのデータ結果が期待されているものです。

海洋人工島が建設され、波力発電を、そして水産資源の増殖——を目標とする同調査視察のため、さる12月8日来留された尾崎 晃委員長と、人工島開発に取り組み堀武男氏、原田留萌市長に、この海洋開発について語っていただきました。



尾崎 委員長

堀 人工島調査委員長

原田 市長

我国初の人工島は黄金岬沖に設置を

尾崎 このたび全国でただ一カ所黄金岬沖に海洋構造物の立地可能性調査地点に黄金岬が決まりましたが、海岸線が非常に起伏に富んでいて大変おもしろそうですね。ですから、海底状況などもどうなっているのか、ぜひ調査してみたいですね。

堀 私も北海道にいた関係で、留萌には過去、数回おじゃましたことがあるんですよ。

今回、二十数年ぶりです来たんですが、マチの中を歩いてみて、昔に比べると建物も立派になっていきますし、確かに明るくなったという印象を受けましたね。

これからは海洋の時代で、留萌はタイミング的にも、非常によいところに目をつけたと思うんです。海洋開発を進めて、さらに明るくしなければいかんと思うんですね。

市長 私たちも早くから海洋開発には目を向けていたんですが、こういうことはやはり機というものがあわよく、ようやくその機が熟して、先生方のお世話になることになりました。

皆様の調査、研究にあたっては私たちも積極的に取組んでまいりたいと思います。

《検討委員会・黄金岬を視察》 調査地としては最適——の折り紙

昨年10月に科学技術庁が進める海洋構造物の有効利用調査地に指定された黄金岬を、12月8日各方面の専門家によって構成されている「現地海洋構造物調査検討委員会」委員長・尾崎 晃北大工学部教授の委員六氏が、黄金岬を視察しました。

世界の三天波浪の一つを誇る留萌沿岸はいく静かで、沖合に

設置された波高計も肉眼で確認できました。

この検討委員会は、運輸省や建設省、室蘭工大教授など港湾・地質などの専門家によって構成されている。同調査は本年から五カ年にわたって本格的な調査が開始されますが、予定としては模型実験や海洋構造物の調査、波浪の観測などが実施されることとなります。

委員会では「冬季間のデーターを見ると、調査地としては最適です」と語っていました。

／海洋シンポジウムで講演

また、この日は、同委員会の委員の一人である堀 武男氏（経団連沖合人工島調査委員会委員長）が「研究進む海洋開発」と題して鶴岡で講演が行なわれました。

同シンポジウムには、市総合エネルギー振興推進協議会や留萌工業高校の生徒など、関心の高い市民約二百人が参加し、堀氏の高い知識と経験を折りませた講演に聞きっていました。



調査地の黄金岬を初めて視察する現地海洋構造物調査検討委員会の各委員



海洋シンポジウムで「研究進む海洋開発」と題した講演をする堀武男委員。約200人の市民が熱心に耳を傾けました。

たいと思いますので、心おきなく研究を進めていただきたいと思っています。

／海洋空間の有効利用といえます

と、そうとう広範囲なものとなりそうです。

堀 海洋空間の利用については、けっこう古くから実績があるんですよ。

代表的なものは沿岸漁業、塩田干拓などについて利用されていますし、近時は神戸のポートアイランド、長崎の海上空港、沖縄のアクアポリスがあります。

国土のせまい我国の今後を展望した場合、どうしても海洋空間の積極利用は避けられないし、また経済水域が設定されたからには、海洋をアクティブに利用する発想を持つべきで、必要な水産資源はこの経済水域の中で、そのほとんどを供給できるようにすべきでしょう。

その意味で留萌は研究地として格好な場所といえるでしょうね。

市長 将来は大規模な海洋空間利用が実現するんでしょうね。

私も、なんとか留萌の沖合に人工島を造ってほしいもんだと思っています。

私たちは、漁業の振興、新しい観光、波力エネルギーの回収などを人工島の周辺でぜひ実施したいと検討を重ねているところです。

先生方には、この人工島を二十

留萌では波力エネルギーに注目を

／海洋エネルギーの開発についてはいかがでしょう。

堀 海洋のエネルギー資源にもいろいろありましてね。

いちおう海流は5千万ワット、温度差は20億ワット、濃度差は26億ワットと試算されています。留萌の場合は、なんといっても波浪エネルギーに注目すべきでしょうね。

日本の海上には、すでに波の